都指定旧跡

吉良邸跡（本所松坂町公園）

両国小学校の少し西側、旧本所松坂町、現在の墨田区両国三丁目に、なまこ壁に囲まれた「吉良邸跡」があります。元禄十五年（一七〇二）十二月十四日、赤穂の四十七士が討入りしたところで、『忠臣蔵』で知られるところです。

吉良上野介の屋敷は、はじめ鍛治橋の屋敷を拝領していましたが、刃傷事件のあと、赤穂浪士が吉良屋敷に討入るという噂があり、周囲の大名屋敷から苦情が出て、元禄十四年八月御用地として幕府に召し上げられ、一時こどもの上杉弾正大弼の屋敷に身を寄せ、その後、同年九月、ここ本所松坂町の松平登之助の屋敷を拝領し移り住みました。江戸城近くの屋敷から比べれば、赤穂浪士の討入りは、格段に容易になったと世間でいわれました。

この吉良家上屋敷は、広大で東西七十三間（約一三二m）南北三十四間（約六二m）二千五百五十坪（約八四〇〇㎡）と記されています。吉良上野介がこの屋敷を拝領したのが、元禄十四年（一七〇一）九月三日、義士の討入りがあって没収されたのが元禄十六年二月四日と、前後一年半に満たない短期間でした。

屋敷の表門は東側、今の両国小学校に面した方にあり、裏門は西側で、東・西・南の三方は周囲に長屋があり、北側に本田弥太郎、土屋主税の屋敷と地続きになっていました。建坪は、母屋が三百八十八坪（約一二八〇㎡）長屋は、四百二十六坪（約一四〇〇㎡）でありました。

現在、「吉良邸跡」として残る本所松坂町公園は、二十九・五坪（約九八㎡）で当時の八十六分の一に過ぎません。これは昭和九年（一九三四）地元両国三丁目町会有志が発起人となって、邸内の「吉良公 御首級（みしるし）洗い井戸」を中心に土地を購入し、同年三月に東京市に寄付し貴重な旧跡が維持されました。区への移管は、昭和二十五年（一九五〇）九月です。

公園をとり囲む高家の格式を表す「なまこ壁」と黒塗りの門が、僅かに、当時の模様を偲ばせています。

毎年十二月十四日の討入りの日には、赤穂四十七士と、吉良二十士の両家の供養を行う『義士祭』が、両国連合町会主催で行われ、十二月の第二の土曜日・日曜日には、両国三丁目松坂睦主催で、地元商店会をはじめ、一〇〇店余が出店する「元禄市」も開かれ大変な賑わいを見せています。

また『吉良祭』も催され、主君のために亡くなった吉良家家臣の冥福を祈っています。

吉良上野介義央公座像

園内にあります吉良上野介の座像制作に当っては、愛知県吉良町に吉良の菩提寺華蔵寺があり、上野介五十歳の時、一六九〇年頃自らが造らせた寄木造の座像が現存しています。その姿型をそっくりに、また愛知県歴史編纂委員会の調査資料を参考に制作いたしました。

両国三丁目町会と吉良邸跡保存会が主体となり、吉良町のご協力も戴きました。

（平成二十二年十二月十二日建立）

両国三丁目松坂睦主催「元禄市」

吉良上野介追慕碑　吉良家 家臣二十士碑　みしるし洗い井戸　《園内全景》　吉良上野介義央公像

吉良邸跡 正門